

◎四條金吾殿御返事（法華經兵法の事）

「なにの兵法よりも法華經の兵法をもちい給うべし。」

（御書新版 1623 ページ・御書全集 1192 ページ）

◎人間主義の哲学の光彩

御本尊には、無量無辺の仏力、法力が厳然と具わっている。しかし妙法という大宇宙を貫く大法則の力を、現実の上に顕現し、実証し、自ら体得していくには、自分自身の信心——信力、行力によるほかにはない。日蓮仏法の信仰は、いわゆる「おすがり信仰」や「他力本願」ではありません。

（中略）

一切は、自らの信心がどうかで決まります。「心こそ大切」です。それゆえに、自分自身が「一人立つ」信心でなければなりません。

（中略）

どこまでも、自ら勇気ある信心に立つことが、すべての根幹です。

（「大白蓮華 2024 年 4 月号」 14 ページ）

◎四條金吾殿御返事（石虎將軍御書）

「神の護ると申すも、人の心つよきによるとみえて候。」

（御書新版 1608 ページ・御書全集 1186 ページ）

◎名誉会長と共に 今日も広布へ

自分のため、だけではなく、「広宣流布のため」という大願に立った祈りから、偉大なる仏力・法力は湧き出ずる。私も、友のため、平和のため、希望と幸福を全世界に拡大するために、毎日、真剣に祈ってきた。勢いある祈り、具体的な祈り、何があっても前向きな祈りが大事だ。

（中略）

現状を嘆いても、しかたがない。青空のような大きな心で、カラッとした気持ちで題目をあげるのだ。どんな時も「さあ、これからだ！」と、勇気凛々と進むのが、本因妙の仏法である。

（聖教新聞 2012 年 7 月 22 日付）